

卒業設計への道

～建築系学生の健康ライフ～

目的・理由 東北大学の学生に、大学生活の締めくくりに相応しい作品を作ってもらふこと。

- 過ごしやすい環境をつくり設計効率を高める。
- 東北大学の学生の卒業設計日本一決定戦への参加数を増加させる。

建築系学生の有志それぞれが、大学生活で感じ考えたことの集大成を「卒業設計」として表現するのだが、東北大学の学生のほとんどは11月の卒業論文を提出してから卒業設計にとりかかる。そのため過酷なスケジュールの中で設計をすることは目に見えており、少しでも快適に設計を行うための環境を提供することを提案する。

卒業設計に関わらず、普段の課題設計でもその環境は有効に使われると考え、学生全体にとって良い影響をもたらすはずである。

参考：せんだいデザインリーグ 2009 卒業設計日本一決定戦の作品展示はメディアテークにて 2009年3月8日(日)～15日(日) 10:00～19:00 ファイナル(公開審査)は東北大学百周年記念館・川内萩ホールにて 2009年3月8日(日) 15:00～20:00。

予算 学生側にはコストは発生しない。費用は大学と建築学科を卒業したOBからの寄付金であり、設備購入と建物改修にあてられる。

- ・シャワー室設置
- ・ベッドの購入
- ・資料室の開架時間延長
- ・最新CGソフトなどの配布
- ・購買に置く模型材料の種類を増やす

現状

家に帰り入浴する時間もなく机の下で寝る学生が多く、大変不健康である。製図室においてあるベッドはいずれも汚く、M1からB4が利用するのに対し台数は3台である。資料室も利用することができないために学生の知識低下を招いていると考えられる。また、模型の材料を販売している青葉画荘の場所は大学から遠く、交通手段のない学生には大変不便であり、その代わりとしてダイソーなどで材料を購入するため模型が安っぽくなってきている。

要望

OBや学科長を対象にした製図室で一日を過ごしてみようツアーを開催しようと考えている。ぜひ一度現状を見にきていただきたい。

<プロジェクトマネジメント> 1枚企画書

2009/07/09
A6TB5059 菅井牧子

青葉山キャンパスシャワー室計画

青葉山に学生が利用できるシャワー室をつくる

目的 青葉山キャンパスに学生が24時間利用可能なシャワー施設をつくること

●快適な研究環境をつくる

東北大学青葉山キャンパスでは次世代を担う学生たちが昼夜研究に励んでいるが、その志は高く、その活動が深夜あるいは早朝まで続くこともしばしばである。建築学科の設計課題の締め切り前には数日学校に泊まりこみ活動を続ける学生も多い。新青葉山キャンパス建設が進められているこの機会に常に利用可能なシャワー施設をつくることで、学生にリフレッシュする時間を提供し、研究活動の促進につなげ、学生の更なる飛躍を望むことができる。

予算 建設費用は建築業者4社の見積もりによると、***円。完成後は校舎の清掃業者に清掃を依頼する。使用料金として一回100～200円を予定。

現状 現在、学生は研究を続けたいにも関わらず、シャワーを浴びるために帰宅する必要があり、その通学時間を無駄に消費している。あるいは帰宅する時間さえ惜しんで不衛生な状態で研究を続ける者もいる。効率のよい研究が行える環境であるとは言いがたいのが現状である。

要望 本江先生には東北大学キャンパス計画室への影響力を利用して、シャワー施設の実現に尽力していただきたい。

ボランティア参加率の向上プロジェクト

～無償で貢献することによる学生の自己成長を促すためのツアーづくり～

目的 更にボランティアに”気軽に”かつ”継続的に”参加するための最初のコンタクトとして、学生が各NPO団体を巡るツアーを開催する。ツアーを通して学生にボランティア参加を促すことを最大の目的とし、賃金を代償とするアルバイトとは異ったボランティアならではの人間的成長を学生生活4年間における社会貢献を通じて図る。

- 運営自体も学生が主体となって、ツアーを随時行う実行委員会を創立させる。
- みやぎNPO団体と東北大学学生の強いつながりを築き上げる。
- 全国の大学生にも参加を呼びかけるために、テレビ出演を果たす。
- 1年後にはボランティア参加率1位の大学となる。

理由 現在みやぎNPO情報ネットに登録されているボランティア団体の数も720件を越えるまでに増大し、団体に既に参加している方々の活動の場が増えて社会貢献しやすい傾向になりつつある。しかし、いったい大学生の何割が実際にこうしたボランティアに参加し活動しているのだろうか。テレビなどでボランティアの活動が取り上げられているのを見て、一度は参加してみたいと興味を持ちつつも最初のコンタクトを団体になかなか取れずに結局参加しないまま卒業してしまう学生が大半であるはずである。

その最初のきっかけ作りを支援し、学生のうちに社会に起きている様々な問題に取り組むことで、社会に出てからも問題意識を強く持てるようになることを期待する。専攻の学業だけでなく、有志で行う社会貢献の経験の有無が今後益々重要となってくる。また、その相乗効果として、増大していく各NPO団体同士を強く結ぶ架け橋として、学生によるネットワークがNPO団体自体にとっても有効なものとなると考える。

具体的には、まず希望する学生を率いて「福祉」「障害者支援」「環境問題」などのジャンルを問わず、1ヶ月ほどで10団体ほどをマイクロバスで巡って活動を体験し、その中から2～3の団体を最終的な活動先として学生に選んでもらう。隔月で報告会を行い、モチベーションの維持と情報交換を図る。

予算 学生をマイクロバスに乗せて移動するため、毎回の交通費と学生およそ10人分の昼食代。

現状 マイクロバスの運転手と車の確保はできた。現在ツアーに協力していただける団体の募集をかけている段階であり、返事次第で1ヶ月で廻る団体ルートが決定する。更なる学生への周知が必要だが、費用が用意できれば団体からの返事を待ってすぐにでもツアーを開始できる。

要望 学生から参加費を取ると参加数の減少に繋がる恐れがあるので、弁当代等各種費用の工面をお願いしたい。

資料室の図書貸し出しについて

学生の知識向上のチャンスを確保する

目的 学生に最新の資料で知識を身につけてもらう。

- 意欲ある学生に学びやすい環境を提供する

建築学生がよい設計をするためには、まず模倣から始まる。そのためには、身近で有名な作家の作品をじっくりと調べられることが必要である。かつ、現状として有名建築ののった写真集や雑誌を何冊も個人が買うには大きなコストがかかり、そのような余裕のない学生はざらにいる。そのような学生たちのことも考慮に入れて、大学側が彼らをサポートするべき立場となっている。

予算 秘書さんの給料を時給に直したときの2時間分/一日当たり 円
というのも、今資料室を管理しているのが3階教授陣の秘書さんたちなので、その方たちの仕事の負担が増えるということを考慮した上での予算である

現状 ・週に4日、1日2時間の利用時間のみ

・貸し出し不可

閲覧をするにも椅子が5脚あるのみでスキャナーは1台のみ。それに対して資料室を頻繁に利用すると考えられる、製図室にいる学生数は3年が30人4年が20人M1が16人程度であり、とても収容しきれない。

要望 昨年度まで認められていた、図書の貸し出しを許可してほしい

ひかり幼稚園の自家用車送迎安全プロジェクト

妙見寺駐車場の交通整理をする

目的 妙見寺駐車場のひかり幼稚園送迎による混雑を整理し、園児および付近の通行人・通行車の安全を確保する

- 登下園時の園児の安全を守る。
- 送迎時の接触事故を無くす。
- 通行人の安全を守る。
- 表の通りを通行する車の安全を守る。

妙見寺駐車場(前庭)は駐車可能台数が本来8台ほどであるのに対し、ひかり幼稚園の送迎時間帯には10数台の車が同時に集中する。元来ここは庭であるため、1台ごとの停車位置もはっきりと決められておらず、多くの場合寿司詰め状態となる

また、表通りから入り口へ向かう路地が狭く一方通行であるため、表の通りから入ろうとした車が前方へ進めず何度も引き返すような場面が多く、そのために道路脇の標識や妙見寺の門に車体をぶつける確率が高くなっている。

多くの車が狭い場所にひしめき合い、お互いの行動を注意深く測りながら移動する状況は、園児や通行人にとって危険であり、父兄の車体を傷つける可能性を高めている。また、これらの車が駐車場に入れるのか入れないか路上で葛藤していることは、表通りを通過する他の車にとっても危険な状況となる。

予算 父兄および職員で交通整理を行う場合、金銭的予算は発生しないが、路地入り口脇にある有料駐車場を送迎時間帯のみ賃借することも視野に入れてほしい。

現状 妙見寺駐車場で、たまに心ある父兄が他の車を誘導している。

要望 送迎時間帯に路地の入口と妙見寺の入口にそれぞれ1人ずつ交通整理を行う人員をおく体制を職員と保護者の連携により整えたい。そのために、幼稚園主導で保護者との連絡協議会を立ち上げて欲しい。また、路地入り口脇の有料駐車場の送迎時間帯の賃借を検討してほしい。

タダコピー導入プロジェクト

—東北大学に無料コピーと情報を提供する—

【目的】

東北大学の学生のコピーにかかる費用の負担をなくし、かつ学生に必要な情報を発信する。

- ・ 青葉山キャンパスに三台設置する
- ・ アルバイト求人広告、若者向け商品宣伝、就職関連広告を盛り込む
- ・ サービス開始は2010年4月とする

株式会社オーシャナイズは、2005年にコピー用紙の片面にカラー広告や様々な情報を掲載することでコピー料金を無料にするという新しい情報発信媒体であるタダコピーを開発し、翌年サービスを開始した。

2009年7月現在、北海道・首都圏・関西圏・東海圏・中国四国圏の50の大学構内にタダコピー専用のコピー機を設置してサービスを運営している。

タダコピーのいいところ

- ・ コピー料金が無料
- ・ タダコピーオリジナルの企画がある
- ・ タダコピーオリジナルの広告デザインが見れる

【予算】

コピーにかかる全ての費用は協賛される会社による協賛費でまかなわれる。

【現状】

仙台市内にある会社に連絡をとり協賛可能な会社リストを作成している。

【要望】

東北大学工学研究科長・工学部長の内山勝氏に検討していただきたい。

生涯健康プロジェクト

—愛する妻子、そして自分のために、メタボ回避—

目的 メタボリックシンドロームにならないようにする

- 運動や食生活に気をつかうことで、身体的・精神的にも健康な人生を送る
- 子どもが独り立ちするまで仕事を続ける
- 体型を維持することで、スタイルの良いかっこいい夫・父を目指す

私は将来結婚し、子どもを育てたいと思っている。また、今まで育ててきてくれた両親にも恩返しをしていきたいと思っている。そのために、私は働いてお金を稼ぐ。大学院を出てから定年まで働くとして、約40年。長い道のりである。そこで心配になるのが、自分の健康についてである。

数年前から、巷では“メタボリックシンドローム”、通称メタボが話題になっている。これは内臓脂肪型肥満によってさまざまな病気が引き起こされやすくなった状態をいう。“メタボ”の統計を見ると、40代では予備群も含めると4割以上の方が当てはまっている。“メタボ”の人は、動脈硬化の危険因子である「肥満症」「高血圧」「糖尿病」「高脂血症」を重複して発症していることがあるという。動脈硬化によって、心筋梗塞、脳梗塞、心臓病、狭心症などの循環器病を発症しやすくなる。つまり、死ぬリスクが高くなるのである。

そのうちの一人に、私はなるかもしれない。しかし、子どもを自立するまで育て、妻と死ぬまで幸せに暮らし、両親をサポートしていくためには、働いている間に死んではならない。よって、このプロジェクトを実行する必要がある。

予算 ランニングシューズ: ¥12000

ランニング用ジャージ: 上下¥13000

現状 大学入学時よりも体重が3kgほど増加した。

お腹まわりのぜい肉がついてきた。

将来妻になってくれそうな人はいるが、料理が苦手である。

要望 将来妻となる人には、健康に気を使った食事を作っていただきたい。

妻子、両親には日頃から食生活・運動・飲酒など生活態度について注意していただきたい。

7月9日 西松秀記

A6TB5078 中島靖夫

終バス増便

青葉山キャンパスを発着する最終バスの運行時間を延長する

目的 公共交通機関を利用している学生も、夜遅くまで研究や設計ができるようにすること

- 公共交通機関の利便性を高め、その利用促進を図ることでバイク・マイカー通学を抑制し地球環境に貢献すると共に事故を防止する
- 普段から公共交通機関を利用する人に対し時間に余裕のある研究および設計環境を提供する

最終バスは元から一定以上の乗車率を維持している。また 2008 年 9 月より仙台市交通局は学都仙台フリーパスを導入することで東北大学の学生のバス利用を促進し、その成果として 2009 年度より既に平日は最終の運行時間がそれまでの 22 時 5 分から 22 時 35 分に延長された。しかし、それでもバスを通学に利用する学生はバイク・マイカー通学の学生に比べ圧倒的に不便であるのは否めないために、その是正のために 2010 年度よりさらなるバスの運行時間の延長を要請する。

予算 増発したバスの運行利益および運行経費は全て仙台市交通局が負う。現状の最終バスの乗車状況から行って、運行利益の出る乗車率は確保できるものと思われる。

現状 現在、工学部西のバス停を発着するバスの平日の最終便は 22 時 35 分。土曜祝日の最終便は 20 時 28 分となっている。一方で最終電車は平日、土曜祝日共通で仙台駅発泉中央行き富沢行きともに 23 時 59 分となっている

要望 仙台市交通局は、早急なダイヤ改正を検討していただきたい。

妖怪博物館

～今昔物語からゲゲゲの鬼太郎まで～

目的 ; 多くの人に、日本における妖怪文化がいかに豊かで魅力的であるかを理解してもらうこと

○現代日本の妖怪文化を発展・育成する

○「妖怪美術館」による遠野市の地域活性化を図る

本邦における妖怪文化を「ゲゲゲの鬼太郎」だけと思っはいけない。その歴史は長く、多岐に及ぶものである。文学では、平安時代に説話集として有名な「今昔物語集」、また鎌倉時代には「宇治拾遺物語」が成立している。江戸時代にはかの四世鶴屋南北により、歌舞伎「東海道四谷怪談」が著された。また、現代文壇における京極夏彦を始めとする妖怪文学・怪異文学の隆盛も見逃せない。

絵画からみれば、江戸は正徳年間に大阪の医師寺島良安が「和漢三才図会」を、安永年間には、狩野派鳥山石燕が「図画百鬼夜行」を著した。現代では言わずもがな水木しげるがその筆頭である。

このように歴史的な文脈からも妖怪文化は重要な文化財である。にも関わらず、その文化的価値を軽んじられる傾向にある。

予算 ; 建設費は、¥〇〇億円(今後、博物館の規模などにより変動する)

作品収集費は、¥〇億円

収入は、入館料、関連グッズ販売や定期イベントにより確保される。

現状 ; 文化的な厚みを持ち、今尚脈々と受け継がれる妖怪文化を収集・展示する拠点としての博物館の構想は、世界妖怪協会、全日本妖怪推進委員会、また水木しげるロードで有名な鳥取県境港市の各団体と積極的な協力関係にある。各団体からの代表者による「遠野市妖怪博物館推進委員会」が三か月前に発足した。各団体の協力により、妖怪関連作品の収集も鋭意進行中である。

要望 ; 妖木怪太郎遠野市市長に、市を挙げてのプロジェクトとして実現できるよう、議会への議題提出及び積極的な広報活動をお願いしたい。また、「遠野市妖怪博物館推進委員会」と市長との会議の席を設けて頂きたい。

2009. 7/19 内海康也

タイトル ストーンヘンジ

サブタイトル 太陽系惑星地球の宇宙港開発

目的 発見以来観光地としての人気が高い地球に、宇宙港を建設する

サブ目的 地球環境の保全

地球観光客が望む原始文明的雰囲気の演出

理由 宇宙観光が自由化されて以来、観光客は増加の一途をたどり、宇宙観光市場は今最も成長が期待されている市場である。しかしこれまでの観光地は恒星や彗星、極寒または灼熱の惑星など生命活動を維持できない環境がほとんどであり、また生命活動を維持できるような惑星であっても、知的生命体が存在しないか、存在しても著しく肉体の構成が異なり観光地として魅力に欠けていた。

そんな中発見された地球は快適な気候環境、われわれと同じたんぱく質を主体とした人型の身体構成、太古への郷愁を感じさせる文明以前の状態などが話題を呼び一躍一大観光地となった。しかし現在地球には宇宙港が建設されておらず、離着陸による環境への悪影響が危惧されている。また港がないため容易に離着陸することができず、需要をまかないきれしていない。

そこで今回地球に新たな宇宙港を建設することで、地球環境を保全すると同時に、地球観光の需要を満たし、また建物自体の古代遺構的魅力、インフラ整備により、地球を名実ともに一流の観光地とする。

予算 建設資材は地球のものを使うため発生しない。建設費用はほとんどが人件費とレンタル機材費がしめ■■■■ほどである。新規開港のための費用が■■■■、年間の維持費が■■■■になると試算している。

これらの費用は主要取引銀行からの融資と、株式の追加発行、宇宙船の空港使用料でまかなう。初年度は■■■■便の利用が見込め、その後は年率5-8%の増便が見込め、銀行からの融資は■■年ほどで完済する見込み。初年度の利益は■■■を見込む。

現状 敷地はすでに選定しており、設計は現地の建造物とわれわれの過去の遺構を参考にほとんど終了している。各航空宇宙会社・旅行会社との交渉も好感触を得ており、■■■■年の開港に向けて着々と準備が進んでいる。

要望 新空港建設のための追加融資、株式購入をお願いしたい。

A6TB5501 石川 勇貴

プロジェクトマネジメント

A6TB5034 菊池 由香

東北大学創立 102 周年記念行事

～2009 年秋、仙台で開催。102 年続く東北大学の活躍を称える～

<目的>

無事に東北大学が 102 周年迎えられたことを記念して仙台市をあげて行事を行う。

- ・ 日本全国の人々に東北大学のこれまでの活躍を改めて認識してもらう。
- ・ 東北にある大学との提携をさらに強め、東北の発展に貢献する。
- ・ 大学に所属する者、及び家族を記念行事に呼ぶことで大学への親近感及び忠誠心を育てる。
- ・ 創立記念行事を行うことでマスコミの注目を浴び、大学のイメージアップを図る。
- ・ 多くの関係者を招待することで、東北大学の影響力を大学内外に知らしめる。

東北大学は、明治 40 年(1907 年)に創立され、平成 21 年に創立 102 周年を迎えるにあたって、これまでの一世紀の歩みを振り返り、次の 100 年への大きな発展の契機とする。

<予算>

費用はすべて、大学と協賛企業、および仙台市、宮城県が負担する。

全額 5000 万円。(タレント出演料を含む)

<現状>

日時、行事内容は決定しており、開催場所の確保もできている。協賛企業からの寄付金の金額と予算の兼ね合いを進めている状況で、細かい条件を記した合意文書案を提出している。招待者は決定しているが、出欠はまだ不明。

<要望>

小田和正さんにコンサートに出演していただきたい。

楽焼工芸同好会 窯の新規購入について

目的

日々の活動で作成した作品の焼成

毎年の学園祭での販売のための作品数を効率的に生産する。

日々の活動を活発にする。

部員間の仲間意識を高める。

昨年、楽焼工芸同好会が結成してから 30 周年を向かえた。年代の先輩方は、年々活動場所を広げ、最初は楽焼から始まり、続いて登り窯を自分たちの力で組み立て、焼き締めができるまでに至った。現在ではこの登り窯と中古で購入した灯油窯があるが、一昨年頃から灯油窯の調子が悪くなり、これまでに何度も修理と故障をくり返したが、そろそろ限界に近づきつつある。

今回の窯の新規購入によって、調子の悪い灯油窯と違い、焼成に関する負担が減り、灯油の燃費も以前より数段と良くなることが期待できる。

以前の灯油窯は温度差がどうしても大きくなり、お皿がほとんど失敗してしまったが、このような温度差による失敗も改善できる。

還元焼成の際、ほぼ 100%の黒鉛や悪臭をなくすことができる。

予算

窯の購入	66 万
窯の運搬・設置	5 万
その他(基礎工事や小屋の設置など)	14 万
計	85 万

現状

昨年の 30 周年記念で OB の方々に融資をしてもらったが、現在 25 万程度資金不足である。昨年の学際売り上げは灯油価格の高騰により、今年の活動費で精一杯で、窯の資金に当てる余裕がない。

要望

1 年生から 4 年生までで窯の不足金をどうするか話し合い、今後の活動のために窯の購入を検討してもらいたい。

鈴木茜、初の展覧会

カリスマ建築ガール鈴木茜の展覧会を行い、彼女の東北大学生生活を締めくくる！

目的：鈴木茜展覧会を開き、学部、院時代の作品を時系列に展示し、彼女の成長を顧みること。

- ・ 展覧会を通じて、来場者に東北大での建築の活動・活躍を広報する。
- ・ 東北大の建築学科入学を検討している高校生へのアピール。
- ・ 地元の活性化

鈴木茜は、せんだいメディアテークで最大のイベント、「せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦」の運営者として活動したのち、自身が同大会で入賞するという経歴の持ち主である。彼女は今年で仙台生活6年目を迎え、経験・実績ともに仙台を代表する生粋の仙台っこの一人といえる。

その鈴木茜が、今年で仙台を去る。彼女の仙台での功績を讃え、仙台での最後の年とる今年に初の展覧会開催を実現したい。

地元仙台との結びつきを強く持つ彼女の展覧会を行うことで、仙台の建築・学生・地元住民が結びつき、地元活性化に繋がることを目論んでいる。また仙台以外の来場者にとっては、東北大の建築教育を発表する機会としても機能する。

1人の学生が公共の施設で個展を行うことは全国的に見ても異例であり、新たな形式の展覧会としても注目される。

予算：仙台メディアテーク 5階ギャラリー (a1) 7日間使用。14,000円×7日間=98,000円／設営費用 5,000円 (設営車両駐車場利用金・各種備品 等)／広告費 100,000円 (フライヤー・看板) 合計 203,000円が最低必要になる。

現状：模型、図面、スケッチなど、必要な展示物は全て準備済み。作品は全部で10作品。設営に必要なスタッフは鈴木茜所属の講座から15名招集可能。展示構成・広告のデザインについては、仙台で活動中のアーティスト「yokai」が協力を表明している。

要望：小額でも構わないので、展覧会実現に向けた金銭的援助をお願いしたい。

研究室対抗カラオケ大会

—カラオケを通じて研究室間の親交を図る—

目的

各自の所属している研究室外の人と交流を持つ機会を設け、他のプロジェクトの促進を図る事

- ・ 学生と先生間での親交を深め、他のプロジェクトの促進を図る
- ・ 研究室の仕事から一端離れ、日頃の労を労う

かつて場所を同じくしていたデザイン系の学生と諸先生方の研究室が分かれてしまったことで、それまでのような深い親交を獲得できなくなってしまった。それぞれの研究室毎には定期的に飲み会などが開催されているが、それはあくまでも小規模なもので、デザイン系全体としては春の花見以外にその機会は設けられていない。

カラオケはデザイン系の研究室の一つである都市建築理論講座の飲み会の二次会としてときに利用され、その事が各自の新たな一面を発見、親交を深める事になっている。また、A-CUPなどの建築関係者の間での建築以外のイベントが、その後の打ち上げも含め各自の親交を深める事となっているのは周知の事実である。

デザイン系の研究室の学生は、本大会の運営、管理、企画等すべてを担う。またポスター等を通じてデザイン系の研究室外にも積極的に参加を求める予定である。

予算

大学側にはいっさいコストは発生しない。必要となる費用はすべて参加者の参加費でまかなう事とし、純利益は次回開催の際の費用として繰り越される。参加費はカラオケの利用料（3時間飲み放題+歌い放題+料理のセット=3000円）×人数分（40人程度を予定）を予定している。

現状

現在、既に述べたように建築理論講座では飲み会の二次会としてカラオケを利用する事がある。開催場所としては広瀬通シダックスのパーティールームを予定しており、参加者に関してはこれから募る予定である。ポスター等広告に関しては製作済みである。

要望

諸先生方には周囲への参加を呼びかけると共に、ご自身にもぜひ参加をお願いしたい。

2009年7月9日 大橋 秀允

DREAMS COME TRUE IN SCHOOL

建築棟 校舎内シャワーブース設置企画書

- 目的
1. 東北大学建築学科学生の健康と衛生環境を改善する
 2. 学業生活をより充実にするために、ハードウェアの面でサポートする
 3. 学生にシャワーブース設置案のコンペを提案する

学校で過ごす時間が長い建築学科の学生なら、誰でもこういう施設を夢みたことがあると思う。特に、設計の課題が忙しいときは、徹夜など家に帰られない日々が続くのもよくある。もし校内にシャワーブースがあるならば、課題をするためにより効率よく時間を使えると思う。また、東北大学学生のみ応募できるコンペを開き、学生に何かを提案する力を養成する機会とする。

予算

実際の施工費	40万円
コンペ開催費用	10万円（受賞金、広告料、模型制作料等を含む）

現状

トイレにある洗面台は顔を洗う用途には物足りないのである。その中で、設計の課題で忙しい時期にはほとんど学校で泊まり込みで、体を洗えずに過ごしている。場合によってはシャワーを浴びるために、作業中に長時間かけて家に帰らざるを得ない。

要望

学校側よりシャワーブース設置に関して、了解と協力を求める。
学生は限られた予算内で、自分達の要求にふさわしい案を提案する。